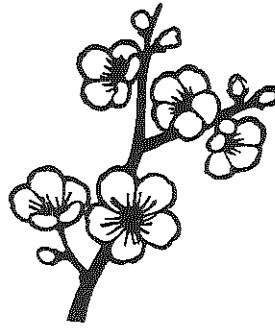




勝林寺住職



今年は、二代前の住職と坊守二人の三十三回忌。九月の宗祖七百五十回大遠忌法要の前日にその年忌法要が當まる予定。この住職夫妻をご存じのご門徒も少なくなった今。あらためてその業績などを顧みて見ます。

「髭のご院家さん」。その晩年は、いさかか畏怖の念をもってそのように呼ばれていたあの住職夫妻です。勝林寺過去帳では第十八代と記されています。わたし（哲俊、高校の教師をしていました）からすると義父母（叔父夫婦）に当たる人。

さて、わたしの実父（哲雄住職）は昭和七年に京大病院で三十六歳で死にました。まだ小学校に入ったばかりのわたしに「決して説教主になるな。誰かれ問わず誰にでもただ聞いて学びなさい」と教えて死にました。生涯、寺をそとにしてあちこちお説教をしていたその反省からの言葉だったのでしょうか。

その住職が死んで、寺にはこの住職の老母と妻の坊守、それに幼児四人が残されました。当面は急遽京都の上夜久野、直見専福寺から来ていた母が得度して法務に就きましたが到底女の身には重すぎたのでしょう。その二年後、次男の幼稚園児「哲心」が死んでしまった。夫と愛児を失い、法務の多忙のためにこの母も昭和一〇年立春の日に豊岡病院で亡くなりました。この母の心配はもう一つありました。夫婦に預け手術療養させねばならなくなりました。そのころ出石から福知山までは一日がかりでしたのに、足しげく見に来てはオンブして病院から荒河の寺まで通つてくれました。

その途次、子守歌のように語ってくれた歌は、有名なご和讃。

弥陀成仏のこのかたは 今に十劫を経たまえり 法身の光輪きわもなく 世の盲冥(ちみよ)うを照らすなり（如來さまはおまえをたすけたくて、ずっとずっとむかしから光の輪のかに、眼の見えない独りよがりのお前を包み照らしていく下さる）母も先に死んでも如來さまといつしょにおまえを願つているのだよ。

私がまだ盲目である間の昭和十年春早く大雪の豊岡市立野の病院で死にました。

父も母も死に、その葬儀を済ませた後、隆雄おじさん夫婦に勝林寺に來てもらうことになりました。この叔父叔母が新しい父と母となりました。この夫婦は、実は九州の仏教学院を出てからあちこちの寺に入つてその住職坊守をつとめた経験の持ち主です。京都「よざぐん」の山奥「駒くら」（いまは廃村）にもいましだがその村民からは今も慕われています。

とかくそのような人柄です。人の苦難を身を粉にして世話を焼く人。「おせつかい焼き」がこの夫婦のトレード・マーク。

勝林寺のご門徒・親戚に懇望されて出石に帰つてくるやすく、計画が、たび重なる不幸で頓挫していた庫裡（くり）（寺の住居）の新築を始めました。昭和十一年には新しい大きな庫裡に入居できていたと思います。

私は早くからこの義父母に世話になつていましたので何のこともありませんが、私の二人の姉妹はなかなか馴染むのにかなりの時間がかかったようでした。（次号へ続く）

坪口 中嶋彰範 様 六九歳

葬儀

一二月一七日

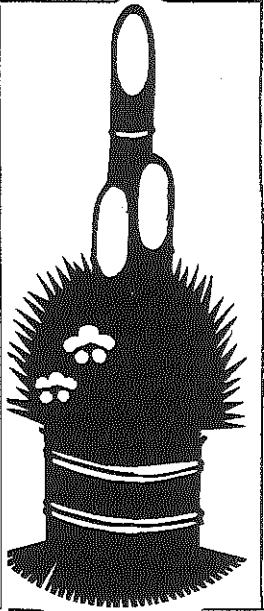
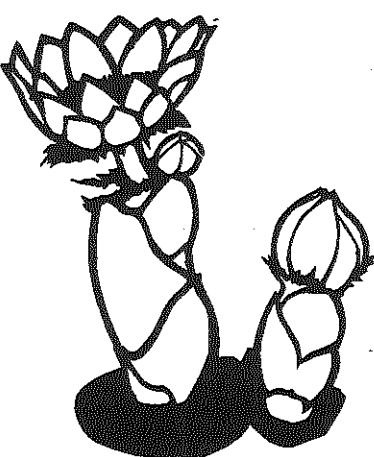
謹賀新年

平成二十五年元旦

住職 坊守 西池 西池 深音
後継住職 西池 西池 希里
西池 入海 哲俊 美夫幸
西池 大学院

△ 副社長	△ 責任役員	△ 総代会長	△ 前住職
足立 幸夫	永井 正人	坂本 重雄	田中 玉井
中島 武志 正和	坂本 克弥	光隆	中島 英樹
希里 (高2) (中3)	深音 (大学院)	中永井 嘉信樹 孝一郎	中永井 英樹

一日(火)	修正会
四日(金)	年始参り (但東町方面)
一日(金)	坪口
二日(土)	坪口
十二日(土)	総代会
十三日(日)	坪口(女中講)
十五日(火)	和屋・出石
十七日(木)	出石
十八日(金)	出石
十八日(金)	出石組三役会
十九日(土)	代議委員会
二十日(日)	代議委員会
二十一日(月)	檀見
二十二日(火)	檀見
二十三日(水)	檀見
二十五日(金)	出石・但東仏教会役員会
二六日(土)	中島英樹宅 三回忌
二六日(土)	みのりを聞く会
二八日(月)	中嶋敏博宅 忌明
二九日(火)	出石組 実践委員会
三一日(木)	佛壯役員会



漢字あれこれ



どこの国どの民族でも同じでしょうが、日々の上の指針を与えてくれたのは「占い」でした。動物の骨を焼いたり傷つけたりして占いました。また砂漠や海上にくらす人たちでは月や星を観察しました。漢字を生んだ中国では龜甲文字、金石文など世紀以前に既にいろいろな占い文字が出来てきました。それが出発して殷の時代・周から秦の時代と文化がすんでいくと共にいわゆる「漢字」は増え続け、漢の時代が過ぎて紀元一世紀半ばには許慎という学者が漢字約九千字を部首別に系統分類して、世界最初の辞書『説文解字』(せつもんかいたじ)を作りました。以降時代が進むにつれ、文字数も増え続け、また音や字義も変化しました。

例えば「**奴糸**」。経過・縊縛の漢音ではケイ。意味はうつる・すぎる。これが吳の時代になるとキヨウ。インドから中国へ渡ってきたストラ(仏典・經典)を指すようになります。それが宋の時代になると「キン」と発音し、禪宗が盛んになるなかで「看經」カンキンと発音されお経を(静かに)読む意味で使われます。

日本と国交の盛んになる隨・唐(六世紀以後十一世紀)時代になると「唐音」が入ります。【アンドン(行灯)】「まんじゅう(饅頭)」など。また、その時代に流行の思想・宗教の影響でもいろいろな変化があります。

右為・無為 先ず「有為」。儒教ではユウイと読み「有能(うのう)な人材」。老子ではムイのユウイ。「無為の有為」(ムイのユウイ)なんら作為なく(無作為)な「自然(じぜき)」な生き方が尊重されました。論語に古代の聖王舜(しゅん)の治世をたたえ、「無為ニシテ治ス」とある。仏教では「有為法・無為法」(ウイホウ。**右為無為法**・ムイホウ)が有名です。日本ではなにもしないでブラブラとごはんだけは食べて暮らす口クデナシを「無為徒食の人物」といったといいます。

さて、仏教でウイホウ。この場合「法」はものが。「有為法(ウイホウ)」は因縁生滅の法の意味。無数の因や縁(原因や条件に縁)で造られているもの)。だから生滅変化する「無常なもの」。いろはうたに「いろはにはほど散りぬるを わが世たれぞ常ならむ 有為の奥山」とうたわれている「諸行無常」のこと。それに対して「無為法(ムイホウ)」とは人間の計らい(自己本位なところ)を一切振り捨て、自然(じねん)のままのあり方、「法爾」(ほうに)(如来のおおせに素直に任せた)生き方を意味します。親鸞さまの説かれた教えの結論です。

敬老



「老」いう漢字は金石文字でも「腰の曲がった人が杖にすがって歩む」姿を象(おなづ)つていわゆる象形文字であることは周知の通り。問題は「敬」という文字の意味である。「老を敬う」とは、具体的には何をどうすることなのか。

「羊のような髪をした」、おそらくチベット族の人々に「神のお告げ」を入れたうつわを前かがみに抱えさせ、その後ろから人が「なにかをしている」と云うのだ。

「**父**」は人の動作だが、これは例えば「教訓」は人の動作だが、これは例えば「教訓」が勝手に選びましたけど…」と云うのだ。

この人の動作が問題。

一大人の仲間入りをされたお祝の言葉に、日本人・地域を改めていたい」とを命じました。益々お仕事、晩学に励まれ、近づかれる住職不在のピンチヒッターとして、正信偈の導師を勤め、短い法話(?)もしました。

第五位 入海(中学二年) ハドヘルビングホールステイ体験
日本・地域を改めていたい」とを命じました。お祝いを述べ、トキやかなお祝いをお送りいたしました。

第六位 坊守(みのり)を宣へゆきデビュー 夏に患つた皮膚病がもとで、九月にお淨土手のだろうか。

夏に患つた皮膚病がもとで、九月にお淨土手のだろうか。

第七位 獅子「レ」との別れ に往生いたしました。

夏に患つた皮膚病がもとで、九月にお淨土手のだろうか。

坊守「みのり」を宣へゆきデビューが勝手に選びましたけど…」

第八位 勝利(小学二年) パンチヒッターとして、正信偈の導師を勤め、短い法話(?)もしました。

第九位 入海(中学二年) ハドヘルビングホールステイ体験
九月の一週間、アメリカの中学生生活を体験する機会に恵まれました。

第十位 前住職・祝米寿 夏に患つた皮膚病がもとで、九月にお淨土手のだろうか。

めでたく米寿を迎えたたくさんのの方からお祝いの言葉をかけていただきました。

第一位 後輔性職 戦没者追悼法要を勤修 チームワークの良さで他を上回り、勝利をおさめました。二月の県大会も頑張ります。

第二位 前住職・祝米寿 夏に患つた皮膚病がもとで、九月にお淨土手のだろうか。

めでたく米寿を迎えたたくさんのの方からお祝いの言葉をかけていただきました。

第一位 住職 出石組組長を拜命 夏に患つた皮膚病がもとで、九月にお淨土手のだろうか。

悲しい」と、うれしい」といろいろあります

悲しい」と、うれしい」といろいろあります。したが、すべて「今のわたし」「明日のわたし」につながる大事なでき」とばかりです。今年もたくさんの方の御縁の中で、家族それぞれにいたいたいたいのちを精一杯生きさせていただきます。(文責 坊守)

新しい年が始まりました。今年もよろしくお願ひします。今回の「どすん」は、「昨年一月の勝林寺我が家の七大ニユース」をお届けします。(私)

が勝手に選びましたけど…)

の勝林寺我が家の七大ニユース」をお届けします。(私)

を